

# 衆院 道5区選 補

町村信孝前議長の死去に伴う衆院道5区（札幌市厚別区、石狩管内）補欠選挙は4月24日の投票票まであと1カ月余りとなり、新人2人が自己アピールに懸命だ。野党5党が推薦する無所属の池田真紀氏(43)はシングルマザーとして息子2人を育てた経験語り始め、「女性の目線」の必要性を唱える。一方、自民党公認の和田義明氏(44)は元大手商社マンの肩書を前面に打ち出し、「あらゆる問題に対応できる実務家」のイメージを強調したい考えだ。

## 「女性の目線」アピール 池田氏 元商社マン実務家強調 和田氏

党の太田和美の各衆院議員と、社民党の山内恵子元衆院議員、生活の党の森裕子前参院議員が駆けつけた。池田氏は働きながら子育てしたエピソードを披露し、「現実と見合わない制度がたくさんある」と指摘した。安倍政権の子育て支援をめぐっては「保育園落ちた日本死ね……！」と題した匿名ブログをきっかけに待機児童問題への批判が高まっている。陣営は女性議員らのそろい踏みや、池田氏の境遇告白で、世論をすくい取りたい考えだ。

「女性が抱えるさまざまな問題を体験し、自分の言葉で語り、解決できる候補だ」。辻元氏は札幌市内での集会で持ち上げた。池田氏は「安保関連法に反対するママの会@北海道」の支援も受けている。

「当別や北海道の宝を増やすのが政治の力だ。相手の揚げ足を取るのには政治の役割ではない」。21日に石狩管内当別町で開かれた和田氏の集会には、三菱商事の先輩に当たる福田達夫衆院議員が応援に訪れた。父は福田康夫元首相で、義父の町村氏が官房長官として支えた縁もある。

和田氏は三菱商事に約20年勤務し、海外経験が豊富で、インドでは自動車販売に携わった。集会では三菱商事OBの宮司正毅当別町長も「与党じゃないと力にならない」と援護射撃。和田氏は「商社マンの得意技は落下傘部隊のように飛んでいっても、順応して人に会って、スペシャリストになることだ」と訴えた。

元商社マンの肩書は、世襲批判に對抗するセールスポイントでもある。自民党本部は待機児童問題について「5区で調査したが、厚別区と江別市の100人弱しかない。争点にならない」とし、反論する構えだ。



①野党5党の女性国会議員らと拳を突き上げ、共闘をアピールする池田真紀氏（右から3人目）＝21日午後、江別市  
②三菱商事時代の先輩の福田達夫衆院議員（右）と握手する和田義明氏。左は直子夫人＝21日午後、石狩管内当別町

月十二日（火）  
月二十四日  
（報道センター）水野富仁、佐藤陽介